

分野	補完的な道路の整備			事業番号	86	事業名	県単道路改築			
市町村名	長野市	ふりがな 箇所名	(主)戸隠篠ノ井線 <small>とがくしののいせん</small>		せはらだ 瀬原田	事業年度 (完了年度は見込み)	H24年度～	H26年度		
事業概要	計画概要 (延長・幅員・面積・工種など)	道路改良工 L=170m W=5.5(10.5)m					H23年度末事業進捗率	0%		
	H24年度以降実施内容	同上					本工事費等ベース	0%		
	H24年度実施内容	物件調査・用地補償 一式					用地補償費ベース	0%		
	年度	全体事業費	H22年度まで	H23年度	H24年度	H24年度以降残				
財源内訳	事業費計(千円)	90,000	0	0	40,000	90,000				
	国庫支出金	0	0	0	0	0				
	その他									
	県債	81,000	0	0	36,000	81,000				
	一般財源	9,000	0	0	4,000	9,000				
箇所評価	観点	評価項目・指標等			評価		ランク	評点		
	(30)	必要性	計画交通量	4,000台/日以上	1,500台以上～4,000台/日未満	1,500台未満	A	4		
			代替道路	唯一の道路である	代替となる道路がある			0		
			ネットワーク (道路網)	バス路線である		B 駅やICなどに通じる または 役場と交通結節 点や支所などを結ぶ路 線		A及びBに該当しない	5	
				ボトルネック箇所		ボトルネック箇所でない			4	
		各事業特有の必要性(安全の確保)	4.0m未満又は30m未満 又は8%以上(幅員、半 径、勾配)	4.0m以上5.5m未満(幅 員)	5.5m以上(幅員)			4		
			自動車と自転車・歩行 者との分離を図る	歩道はあるが不十分で あるものを再整備	自動車と自転車・歩行 者との分離がなされてい ない			4		
		他事業との関連	河川改修、新幹線、高 速道などの事業に関連 して実施					10		
		小計						30		
	(10)	重要性	設計上の環境・景観配慮	環境・景観配慮がされ 確実性が高い	環境・景観配慮がされて いるが確実性が低い	環境・景観配慮をしてい ない	B	3		
			地域の法的な位置付け	緊急輸送路(1次)に位 置付けられている	緊急輸送路(2次)又は、振興山村、積雪 地域、過疎地域、地震防災対策強化地 域、観光圏整備実施計画認定地域に位 置付けられている	特別な位置づけはない		3		
		小計						6		
	(20)	効率性	費用対効果	B/C(3便益)1.0以上	B/C(3便益)1.0未満 (3便益以外の観点から一 定の効果が得られる)	B/C(3便益)1.0未満	A	5		
			事業効果の早期発現 (H24以降残事業年数)	事業年数 3年以内	事業年数 4年～5年以内	事業年数 6年以上		8		
		コスト削減	全体的に構造物・規格等につ いてコスト削減を実施してい る。	部分的に構造物・規格等につ いてコスト削減を実施してい る。	コスト削減はしていない	7				
		小計						20		
	(20)	緊急性	安全性の向上	交通事故や落石等の危険 箇所の安全を向上させる	交通事故や落石等の危険箇 所指定はないが安全を向上さ せる	交通事故や落石等の危険が ない	B	6		
			各事業特有の緊急性(医療・福祉)	医療・福祉の連携が発揮 できる道路(ネック箇所の 解消)	医療・福祉の連携が発揮 できる道路(円滑化が図れ る)	医療・福祉の連携に関係 ない道路		6		
		小計						12		
	(20)	計画	地域からの要望	地域住民の内発的な要 望が強い	市町村からの要望	特に要望がない	A	7		
事業情報の共有			関係者以外に広く周知	関係者中心に周知	特に周知していない	5				
住民参加の状況		住民が計画策定に直接 参加	住民や市町村の意見を 計画策定に反映	特に住民意見は反映し ていない	4					
小計						16				
費用対効果(B/C)		2.0		評価の合計		A	84			
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当路線は地域の生活道路となっているとともに、篠ノ井と戸隠を結ぶ重要な路線である。現道は幅員狭小、線形不良のため乗用車同士のすれ違いが困難な状況であり、生活の支障となっている。								
	地域からの要望経緯	戸隠篠ノ井線改良促進既成同盟会から、毎年要望活動が行われている。								
	事業説明等の経緯	過去再三にわたり、事業計画説明会を実施。								
	環境・景観への配慮項目	法面は在来種により、復元する。								
	他事業・プロジェクトとの関連	岡田川河川改修事業								
特記事項	特になし。									
地域の合意形成	全員賛成	概ね賛成	過半数賛成	動向不明	その他					
部意見	現道は幅員狭小のため乗用車同士のすれ違いが困難な状況である。地域からの要望もあるため、早期に生活道路としての安全確保を図るため、H24年度から事業化をしたい。			政策評価課 見	必要性が認められる。					